

るのではなくて、やはり生産者の自発性ということで、これもとても特徴的なのですが、全国96団体の生産者自らの宣言、Radix以上の基準を作っているのだというような宣言の自主基準集を作ってきました。

そして第二段階が1999年から2001年。この2年間でRadixがより生産者中心になり、その中で農産、畜産、加工の部会を立ち上げてきました。みんなが技術を上げて消費者に喜んでもらう堆肥の勉強会。今ではいろいろと地域でやっていますが、パソコンの勉強会、土壌分析、パソコンに入れると何が足りない、ホウ素が足りない、カルシウムが足りないというのできる施肥設計ソフト、その勉強会もずっとやっております。

畜産部会もいい動きになってきているのです。農産だけじゃないと、畜産も同じように土から根ざしたことだということで、昨年4月の全国大会から今畜産はトリ、ブタ、ウシ、卵、そして牛乳ということで自主基準の方も先月完成しました。

また加工の方は、衛生講習会を北海道から九州まで計4回開催しました。結構言われて気が付くことのある内容で、どんどん工場の品質が上がっているような食品の衛生講習会です。水産も原点に戻り、今は養殖の研究会在が昨年よりスタートしています。

そして流通部会ということで、神奈

川センターでリサイクラーを、皆さんのちょっとはじいた野菜をもう1回堆肥化するというので、Radixの循環型に向けた活動をしています

## (Dreams Come True!)

交流、品質、情報、この3つを中心に未来価値を作っていきたいというのが僕らの願いであり、皆さんともやっけていきたいことです。

Radixの会は今回の会報誌にも書いてありますが、まずは交流です。これは生産者との交流であり、今度のもっと生産者とセンター、センターと配送員、配送員と会員ということで、やはり地道な活動しかないのです。基金の中で交流の活動を伝えるという柱があります。

それと品質です。品質にはいろいろな品質があります。ただ単に無農薬・無添加だけではない品質に向けて、今まではどちらかという強制、お願いをしていました。そこからお互いに理解して、最後はやはり皆さんにやってもらわない限りわかりませんので、そういう意味で自立ということを挙げています。品質というのが大きな柱になります。

それと情報。ホームページやニュースレターを含めて、情報が大きな柱になると確信しています。この3つをRadixの中で、いかに地域ブロック、農産では北海道から九州まで6ブロックで活動するか。畜産、水産、加

工に向けては各部会でやっていくという形になっていければと思います。

そういう形でやっていけば今回の「Dreams come true」、dreamsは夢ですね。come trueというのは実現するというので、やはりらでいっしゅぼーやのみならず生産者・メーカーもいろんな夢を持っているかと思っています。せつかく500以上の生産者・メーカーが集まっている中で、それが一緒に手を結んでやっていけば、きっとRadix独自の環境保全型の実体ができると思います。そのような形が1つ1つできていければということで、今回の副題に「Dreams come true」を挙げさせていただきます。

今回はRadixの第1回の総会です。これまではらでいっしゅぼーやと一緒にの全国大会ということでやってきましたけれども、今後Radixは竹内を事務局長として、やはり各部会が、各地域が自らのやりたいことをやると、会員さんに喜んでもらって広がっていくことを主体的にやっていけるような会になることをとても期待しています。そういうような会になってもらえればと思います。これはらでいっしゅぼーやの仕入れという立場と、あとRadixの会の副会長としても言えることかと思っています。ぜひお互いに夢を実現しましょう。

